



Wakate News Letter vol. 05

2008. 12. 4 発行

1. 活動報告

1) 平成 20 年度報告会および国際シンポジウム報告

11/6-7 および 11/8-9 に開催された進捗報告会・国際シンポジウムは、成功のうちに閉幕いたしました。

報告会は、プログラム所属若手研究室の研究進捗を所属者全員が一斉に報告・聴講することのできた初の機会であり、また続いて開催された国際シンポジウムでの協力・連携により、横の繋がりも強められ、相互理解を深めるよい経験となりました。若手研究者運営調整委員会が企画した国際シンポジウムでは、決められた担当の仕事ばかりでなく、積極的に裏方仕事を引き受け、協力し助け合いながら進捗を調整し、参加者 100 名ほどの大きな会合を成功に導くことができました。

<研究進捗報告会>

11/6-7 総合研究棟 D-116 公開講義室にて開催。
(以下、JST 提出様式 C「課題管理実施報告書」より抜粋)

内容：学内外の審査アドバイザー一部門委員に研究の進捗状況を報告、内容について議論した。

効果・問題点：各研究者の今後の研究の進展に有益な助言が得られた。初回なので発表内容や聴衆に関するルールが確定しておらず、開催中に若干の混乱があった。

反省事項：発表および審査のルールを早めに決めておく。早めに準備に着手する。

<国際シンポジウム>

11/8-9 総合研究棟 D-116 公開講義室、115 中会議室 117 小会議室にて開催。
(以下、JST 提出様式 C「課題管理実施報告書」より抜粋)

内容：原生生物学に関する国際シンポジウムを開催した。

効果・問題点：原生生物学に関する最新の知見を得ることができ、また国際的に著名な研究者との交流を持つことができた。世界中から 18 名もの招待演者を招いたのに対し、若手研究者とその補助者の計 30 名を中心とする運営では人数が足りず、シンポジウム開催上困難な面もあった。

反省事項：次回以降は規模を縮小するか、より多くの協力者を見つける事と、早めに準備に着手する。

2) セミナー (08 年 11 月)

第 18 回：2008 年 11 月 13 日 (木) 16:30 - 18:00

演題：細胞老化とがん抑制

/Cellular senescence in tumour suppression

演者：成田 匡志 博士 (Group Leader, Cancer Research UK, Cambridge Research Institute)

会場：総合研究棟 D115 室 / 世話人：杉山智康

第 19 回：2008 年 11 月 26 日 (木) 17:00 - 18:30

演題：TGF-beta シグナルの活性勾配形成機構のダイナミクスと形態形成の多様性

演者：新見 修 博士 (ヘルシンキ大学生物工学研究所発生生物学)

会場：医学修士棟 2 階 204 室 / 世話人：鈴木裕之

3) 業績 (08 年 11 月)

<原著論文>

Suzuki T, Tsutsumi A, Suzuki H, Suzuki E, Sugihara M, Muraki Y, Hayashi T, Chino Y, Goto D, Matsumoto I, Ito S, Miyazawa K, Sumida T.

Tristetraprolin (TTP) gene polymorphisms in patients with rheumatoid arthritis and healthy individuals.

Mod Rheumatol. 2008;18(5):472-9

T. Kenta, J. Gratten, N. S. Haigh, G. N. Hinten, J. Slate, R. K. Butlin and T. Burk

Multiplex SNP-SCALE: a cost-effective medium-throughput single nucleotide polymorphism genotyping method.

Molecular Ecology Resources 8:1230-1238 (2008)

Mototsugu Eiraku, Kiichi Watanabe, Mami Matsuo-Takasaki, Masako Kawada, Shigenobu Yonemura, Michiru Matsumura, Takafumi Wataya, Ayaka Nishiyama, Keiko Mugeruma and Yoshiki Sasai

Self-Organized Formation of Polarized Cortical Tissues from ESCs and Its Active Manipulation by Extrinsic Signals
Cell Stem Cell 2008 Nov 6; 3(5): 519-532

Yoshitaka Hatta

"Relating e+e- annihilation to high energy scattering at weak and strong coupling"

JHEP 11 (2008) 057

(前号でお知らせした論文の掲載巻号が決まりました)

Yoshitaka Hatta and Toshihiro Matsuo,

"Jet fragmentation and gauge/string duality"

Physics Letter B 670 (2008) 150

<学会発表・招待講演>

永宗喜三郎

"植物ホルモンと寄生虫：トキソプラズマ原虫におけるアブシジン酸産生とカルシウムシグナリング"

筑波大学遺伝子実験センター秋期トレーニングコース 2008 年 11 月、つくば

Hiroshi Masumoto.

"The NAD+ dependent histone deacetylases, Hst3 and

Hst4 are involved in cellular aging in *Saccharomyces cerevisiae*"

The 6th 3R International Symposium, Oct. 27-30, 2008
YAMAHA Tsumagoi Resort, Shizuoka, Japan (ポスター発表)

Hirakawa, Y., Nagamune, K., and Ishida, K.

"Protein targeting into the chlorarachniophyte plastids."
International Symposium on Protistology: Evolution and Diversity, Tsukuba, November 2008 (ポスター発表)

Tahara, M., Kinoshita, T., and Nagamune, K.

"GPI-deficient mammalian mutant cell is hyper-sensitive to the infection with *Toxoplasma gondii*."
International Symposium on Protistology: Evolution and Diversity, Tsukuba, November 2008 (ポスター発表)

4) 外部資金獲得状況 (08年11月)

▼その他外部資金_財団等

<第36回研究奨励金_財団法人 農芸化学研究奨励会>

丹羽 隆介: H20 (50万円)

コレステロール代謝酵素 Neverland の脊索動物における機能の解明

<平成20年度研究助成金_財団法人 病態代謝研究会>

杉山 智康: H20.12-H.21.11 (100万円)

結節硬化症原因遺伝子 Tsc2 関連遺伝子によるゲノム維持機構の解析

<若手癌研究助成_安田記念医学財団>

鈴木 裕之: H20.12-H.21.11 (100万円)

Tsc-22 による幹細胞の増殖制御機構

5) 若手運営調整委員会よりお知らせ

○ 若手分子医学クラスシリーズ記録 (11月)

▽最先端分子医学クラス (担当: 鈴木裕之)

第7回 11/1

- Dapper1 is a nucleocytoplasmic shuttling protein that negatively modulates Wnt signaling in the nucleus. (JBC)
- Dual epithelial origin of vertebrate oral teeth (Nature)
- ERdj5 is required as a disulfide reductase for degradation of misfolded proteins in the ER. (Science)

第8回 11/15

- Smad 転写複合体形成における共有型 Smad のユビキチン化修飾の役割
- CD1d の関節リウマチにおける機能解析
- Transcriptional regulation of TMEPAI

第9回 11/29

- コンディショナルノックアウトを用いた低分子量Gタンパク質 ARF6 の機能解析
- Interaction between phosphatidylinositol 4-phosphate 5-kinase and ADP-ribosylation factor 6
- 脊椎動物の祖先、ナメクジウオから考える軟骨の進化

▽基礎医学総説クラス (担当: 長谷川潤)

| | | |
|-----|-------|----------------|
| 第5回 | 11/15 | クロマチンダイナミクスII |
| 第6回 | 11/22 | クロマチンダイナミクスIII |
| 第7回 | 11/29 | クロマチンダイナミクスIV |

:: 若手分子医学クラス秋季クラスは全て終了しました。
12月より冬季クラスが開始されます。

2. スケジュール (08年12月)

4日 (Thu) 11:00 - 12:00

振興調整費合同会議 @総合研究棟D-115

8日 (Mon) H21年度科学研究費補助金 新学術領域研究

大学本部締切り

(各支援室締切りは vol.3 を参照ください。)

26日 (Fri) 仕事納め

3. 事務連絡

○ JST 訪問

11/26、JST 科学技術振興調整費プログラム主管 豊田政男プログラムオフィサーの本学訪問がありました。

前半は豊田 PO および JST ご担当井上さんと、本プログラム各部門長及び事務方による会合形式により、JST から経理上の変更等留意点についての説明、本学から進捗報告がなされました。

後半は、PO が若手研究室を訪問し、研究室見学と面談が行われました。各自の研究室で日々取り組んでいる研究活動を紹介することが出来、理解を深めていただくよい機会となりました。

○ 人事 (1)

11月10日より、若手研究者運営調整委員会委員長・副委員長が下記の通り交代となりました。

委員長: 永宗 喜三郎 副委員長: 西丸 広史

○ 人事 (2)

11.16 付採用 西丸研究室補助員 柿崎 美代 (技術職員)

11.30 付異動 若手支援室 佐久間 宏美

Wakate News Letter vol05 [平成20年12月号]
編集・発行: 若手研究者運営調整委員会

*当ニュース・レターは、毎月1回定例会後に配信いたします。
連絡先: 若手支援室 担当 佐久間 vivien@sec.tsukuba.ac.jp